岩医大歯誌 20：312－316，1995

症　　例

岩手医科大学歯学部口腔病理学教室における病理組織検査の報告 ―1994年度の集計―

佐藤　方信，藤井　佳人，佐藤　泰生
岩手医科大学歯学部口腔病理学講座
（主任：佐藤　方信　教授）
（受付：1995年9月22日）
（受理：1995年10月25日）

Abstract：A statistical report was conducted in order to investigate the real condition of pathological examinations diagnosed in our department in 1994.

A total of 660 biopsy materials was discovered among 523 cases (M ; 222, F ; 301). As for the histological classifications of these biopsy materials, odontogenic benign lesions consisted of 5 ameloblastomas, 7 odontomas, and 6 apical cemental dysplasias. The non-odontogenic benign lesions were 20 fibromas, 10 papillomas, 14 hemangiomas, 2 lipomas, 6 pleomorphic adenomas, 12 chronic and localized hyperplastic gingivitis (Epulis) and 27 Sjögren's syndromes. Also found were 66 cases of non-odontogenic malignancy which consisted of 51 squamous cell carcinomas, 4 verrucous carcinoma, 4 adenocarcinomas and 7 others. Among the histologic types of odontogenic cyst, 46 radicular cysts, 12 dentigerous cysts and 13 primordial cysts were revealed. And the following types of non-odontogenic cyst were discovered : 34 salivary gland cysts, 26 postoperative maxillary cysts and 3 incisive canal cysts. In addition, 18 hyperkeratosis (leukoplakia), 7 epithelial dysplasias, 33 chronic inflammatory (garanulation) tissues were found.

Key words：biopsy, statistical report, oral lesion

緒　　言

岩手医科大学歯学部の創設以来，我々の教室では歯学部付属病院の病理組織検査を担当してきた。創設時には年間42件（1965年）であった検査件数は逐年的に増加し，1993年度は644件[1]となっていた。近年，歯科臨床における病理組織検査の重要性は年毎に増し，学外からの検査依頼件数も増加の傾向にある。

今回，1994年度（平成6年）に取り扱った病理組織検査について種々の観点から集計したので，若干の考察を加えてその結果を報告する。

A statistical report of pathological examinations diagnosed in the department of oral pathology of Iwate Medical University in 1994.
Masanobu Satoh, Yoshihito Fujii, and Hirotaka Sato
(Department of Oral Pathology, School of Dentistry, Iwate Medical University, Morioka, 020 Japan)
(Chief : Prof. Masanobu Satoh)

岩手県盛岡市内丸19－1（〒020）

Table 1. The monthly number of the biopsies －1994－

Sex	Month												Total	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
M	25 (1)	22 (2)	22 (4)	23 (5)	19 (6)	31 (5)	25 (2)	19 (7)	20 (0)	21 (0)	17 (0)	24 (3)	268 (35)	303
F	31 (4)	20 (4)	24 (6)	24 (7)	35 (4)	27 (3)	28 (1)	23 (6)	21 (5)	18 (4)	30 (2)	29 (1)	310 (47)	357
Total	56 (5)	42 (6)	46 (10)	47 (12)	54 (10)	58 (8)	53 (3)	42 (13)	41 (5)	39 (4)	47 (2)	53 (4)	578 (82)	660
	61	48	56	59	64	66	56	55	46	43	49	57	660	

( ) : Number of the requests from the outside hospitals.

検索症例と方法

1994年度（平成6年）に取り扱った病理組織検査の集計は岩手医科大学中央臨床検査部病理部門に保管されている病理組織検査症例ファイルの中から口腔病理学教室で診断した症例を収集して行った。なお，症例数（病変）の集計にあたっては，同一症例が2度以上にわたり組織検査が行われていることがあるので，重複して集計されないように慎重に作業を進めた。臨床的事項（年齢，性など）は組織検査依頼書の記載を参照した。

結　　果

1．病理組織検査件数と症例（病変）数

1994年度（平成6年）における病理組織検査件数（Table 1）は男性303件（このうち学外35件），女性357件（このうち学外47件）であり，合わせて660件であった。このうち迅速診断件数（平均年齢）は45件（60.3 ± 12.3歳）（男28件，57.8 ± 12.3歳：女17件，64.4 ± 11.2歳）であたが，全て学内の症例であった。月別の検査件数では2月，9月，10月が少なく，5月，6月が多かった。

また，1994年度の検査症例（病変）数（Table 2）は男性222例（このうち学外35例），女性301例（このうち学外45例），合せて523例であった。年代別では，60歳代が112例で，最も多く，次いで50歳代の90例，40歳代の85例であり，80歳代以上は13例と少なかった。年齢不明が4例でその中の3例が学外からの症例であった。

Table 2. Age distribution of cases －1994－

Age group	Male	Female	Total
0～ 9	7(4)	15(3)	22(7)
10～19	17(4)	29(7)	46(11)
20～29	16(4)	17(4)	33(8)
30～39	14(0)	23(1)	37(1)
40～49	35(7)	40(3)	75(10)
50～59	23(7)	51(9)	74(16)
60～69	47(6)	54(5)	101(11)
70～79	24(1)	21(8)	45(9)
80～89	2(0)	6(4)	8(4)
90～99	1(0)	0(0)	1(0)
unknown	1(2)	0(1)	1(3)
Total	187(35)	256(45)	443(80)
	222	301	523

( ) : No. of requests from outside hospitals.

2．組織診断別症例数

組織診断（病変）別に症例数（平均年齢）をみると（Table 3），良性歯原性病変（19例）では歯牙腫（17.1 ± 10.2歳），エナメル上皮腫（43.4 ± 21.7歳），根尖性セメント質異形成症（52.5 ± 9.6歳）などが多かった。良性非歯原性良性病変（88例）では線維腫（刺激性線維腫，線維性過形成など）（51.8 ± 13.0歳），過角化症（白板症）（58.3 ± 13.7歳），血管腫（58.8 ± 20.3歳），乳頭腫（49.5 ± 27.8歳），上皮異形成（65.3

Table 3. The number of tumors and tumor like lesions －1994－

Lesion	Male	Female	Total
Odontogenic, benign	8	11	19
Ameloblastoma	3	2	5
Odontoma	3	4	7
Odontogenic fibroma	1	0	1
Periapical cemental dysplasia	1	5	6
Non-odontogenic, benign	35	53	88
Papilloma	5	5	10
Hyperkeratosis (Leukoplakia)	11	7	18
Epithelial dysplasia	3	4	7
Fibroma (Irritation fibroma, Fibrous hyperplasia)	4	16	20
Ossifying fibroma	1	0	1
Granular cell tumor	0	2	2
Giant cell granuloma	1	0	1
Hemangioma	5	9	14
Lipoma	0	2	2
Fibrolipoma	0	2	2
Exostosis	1	2	3
Pleomorphic adenoma	3	3	6
Adenoma	1	1	2
Non-odontogenic, malignant	38	28	66
Squamous cell carcinoma	33	18	51
Verrucous carcinoma	0	4	4
Undifferentiated carcinoma	0	1	1
Basal cell carcinoma	0	1	1
Adenocarcinom	3	1	4
Adenoid cystic carcinoma	0	1	1
Oncocytic carcinoma	1	0	1
Carcinoma	0	1	1
Malignant lymphoma	0	1	1
Malignant fibrous histiocytoma	1	0	1

±3.8歳），多形性腺腫（49.0±16.0歳）などが多かった。悪性非歯原性病変（66例）では，扁平上皮癌（62.2±13.6歳），疣贅癌（67.3±8.9歳），腺癌などが多かった。

Table 4. The number of cysts and cyst like lesions －1994－

Lesion	Male	Female	Total
Odontogenic	41	30	71
Redicular cyst	31	15	46
Primordial cyst	6	7	13
Dentigerous cyst	4	8	12
Non-odontogenic	23	40	63
Incisive canal cyst	2	1	3
Postop. maxillary cyst	9	17	26
Salivary gland cyst	12	22	34
Cyst*	3	3	6
Total	67	73	140

* Precise type not histologically determinable.

嚢胞性病変（平均年齢）は140例みられたが（Table 4），歯原性嚢胞（71例）では歯根嚢胞（40.5±18.0歳）が最も多く，原始性嚢胞（31.6±20.2歳）と含歯性嚢胞（16.1±9.9歳）がほぼ同数であった。非歯原性嚢胞（63例）では唾液腺嚢胞（23.6±17.2歳）と術後性嚢胞（51.4±10.2歳）が多く，切歯管嚢胞（45.3±21.5歳）は少なかった。嚢胞の組織学的診断を下しえなかった症例は6例であった。

炎症性およびその他の病変（Table 5）では，シェグレン症候群（48.1±14.2歳），扁平苔癬（59.9±7.3歳），骨髄炎，慢性限局性過形成性歯肉炎（エプーリス）（58.7±16.5歳），歯根肉芽腫（33.1±15.8歳）などが比較的多かったが，単に慢性炎症性（肉芽）組織と診断した症例が33例と多かった。

考　　察

今日の臨床医学において病理組織検査は容易に行われ，その件数は逐年的に増加し，歯科臨床においても増加の傾向にある。日本口腔病理学会ではわが国の歯科大学および歯学部の病理組織診断業務の現状について調査し，今年その

Table 5. The number of inflammatory and the other lesions －1994－

Lesion	Male	Female	Total
Radicular granuloma	4	7	11
Chronic inflammatory (granulation) tissue	13	20	33
Suppurative inflammation	1	0	1
Chronic and localized hyperplastic gingivitis (Epulis)	6	6	12
Chronic apical periodontitis	1	0	1
Chronic ulcer	2	2	4
Candidiasis	1	1	2
Chronic sinuitis	0	4	4
Sialolithiasis	1	2	3
Osteomyelitis	5	8	13
Lymphadenitis	1	1	2
Lichen planus	4	9	13
Sjögren syndrome	0	27	27
Foreign body granuloma	1	4	5
Benign fibro-osseous lesion	1	0	1
Sequester	2	1	3
No diagnosis	8	8	16
No significant change in salivary gland	3	18	21
No carcinoma cell invasion	7	7	14
Total	61	125	186

結果をまとめた中間報告が示された。それによると回答のあった11国立大学中の9大学では講座のサービスとしてこれを行っていた。また，回答のあった9私立大学および1公立大学でも講座のサービス業務として病院に協力する体制をとっていた。

岩手医科大学歯学部における過去の病理組織検査件数は1991年度が474件[2]，1992年度は513件[3]，1993年度は著しく増加し，644件[1]であった。今回集計した1994年度はこれより増加し，660件となっていたが，この殆どは学外から依頼された検査件数が増加したことによっていた。

月別の検査件数では1991年度は2月，7月，8月，9月，10月に多く[2]，1992年度は，5月，6月，7月に多く[3]，1993年度は4月，11月，12月に多かったが[1]，1994年度は5月，6月に多く，2月，9月，10月に少なくなっていた。

病理組織検査症例を男女別に比較してみると，1991年度は男性症例が多かったが[2]，1992年度[3]と1993年度[1]は女性症例が多くなり，今回集計した1994年度の症例数は523例で，性別では男性（222例）に比較して女性症例（301例）が圧倒的に多く，男女の症例数の差は年々開いてきていた。検査症例の年齢についてみると，1994年度には40，50および60歳代が多かったが，この4年間[1,2,3]の比較では特段の傾向は見られなかった。

口腔悪性腫瘍のほとんどが粘膜上皮に由来する扁平上皮癌である[4,5]。この3年間に著者らの教室で扱った病理組織検査でみると扁平上皮癌は1991年度が27例[2]，1992年度が36例[3]

で，1993年度[1]は41例と逐年的に増加の傾向が見られたが，1994年度は51例となり，一層増加の傾向が明らかであった。なかでも1991年度と1992年度は圧倒的に男性症例が多かったが[2,3]，1993年度[1]は男性が21例，女性が20例と，ほぼ同数になっていた。しかし，1994年度は女性が18例で，男性が33例であり，男性症例が圧倒的に多くなっていた。

扁平上皮癌症例の来院時の平均年齢は1991年度は65.0±11.5歳[2]，1992年度は60.8±12.3歳[3]，1993年度は67.1±10.4歳[4]であったが，1994年度の症例では62.6±13.6歳となり，前年より若くなっていた。今後も逐年的な集計を継続して症例を増し検討して行かなければならない点であろう。

嚢胞および嚢胞性病変の組織型別症例の頻度は過去3年間の成績[1,2,3]で年度毎に大差は見られていないが，1994年度もその頻度に大きな相違は見られなかった。また，1994年度も組織学的に確定診断のつかなかった嚢胞が6例あったが，これまでもこの程度の割合で確定診断できなかった症例がみられていた。これらは強い炎症性変化のため組織像が改変されていたり，検査材料が適切な部位から採取されていないためにその本質的な特徴が鏡検できなかったことによる。

結　　語

岩手医科大学歯学部口腔病理学教室で1994年度に取り扱った病理組織検査について種々の観点から集計し，若干の考察を加えてその結果を報告した。

本報告の要旨は岩手医科大学歯学会第21回総会（1995年12月2日，盛岡市）にて発表した。

本稿を纏めるにあたり，検査症例の収集にご協力をいただいた岩手医科大学中央臨床検査部臨床病理部門（室長：中村眞一教授）臨床検査技師安保淳一氏と収集した症例の整理にあたった口腔病理学講座技術員補寺田歓子さんに感謝します。

文　　献

1）佐藤方信，藤井佳人，菊地博生：本学歯学部口腔病理学教室における病理組織検査の報告－1993年度の集計－，岩医大歯誌，20：93－97，1995.
2）佐藤方信，佐藤泰生，藤井佳人：本学歯学部口腔病理学教室における病理組織検査の報告－1991年度の集計－，岩医大歯誌，18：136－142，1993.
3）佐藤方信，藤井佳人，佐藤泰生：本学歯学部口腔病理学教室における病理組織検査の報告－1992年度の集計－，岩医大歯誌，18：210－215，1993.
4）Neville, B. W., Damm, D. D., Allen, C. R., and Bouquot, J. E.: Oral & Maxillofacial Pathology, W. B. Saunders Comp. Philadelphia, p. 295, 1995.
5）岡邊治男：扁平上皮癌（類表皮癌），二階宏昌，岡邊治男編：歯学生のための病理学，口腔病理編，第1版，医歯薬出版，東京，234頁，1991.